

2. キーノートスピーチ：

工業団地の農村“*sáng đi tới về*”（自宅通勤）型農村労働の展開¹

桜井由躬雄²

私は1994年から紅河デルタ農村の経済社会の発展過程を研究しています。その研究結果から紅河デルタ農村には2つの経済の存在があると考えています。すなわち、「食べるための経済」と「稼ぐための経済」です。「食べるための経済」は「主」として稲作農業であり、「稼ぐための経済」は「副」になります。もし農民が現代的な生活を求めるならば農村を離れ都市へ向かいます。農村青年の学歴が毎年高くなっているにも関わらず、都市部の労働需要がそれほど高くなく、都市での暮らしを十分に賄えるだけの賃金水準にないことで、多くの農村青年たちは農村に滞留しているのであります。ドイモイ後の20年間、都市と農村の人口の変化は少ないのがベトナムの実態です。

そこで、Bach Coc村の経済を考察してみると、2003年以降の変化は急激であり、その変化は非常に大きなものです。とくに消費水準の発展には目を見張るものがあります。他方で、日々の農業の収入源となる野菜市場などは十分に発展しているとはいえません。すると、農民の主とした収入は農業ではなくなっており、工業区からのそれが主であることがわかります。2003年末にナムディン省にはHoa Xa工業区が建設され、それはBach Coc村からわずか3-4キロの距離でした。そのため、この工業区にはBach Coc村だけでなく、その周辺農村から多くの労働力を吸収しはじめたわけです。現在Xom Bの青年の80%が“*sáng đi tới về*”（自宅通勤）型、あるいはcommutingで工業分野に参入しています。

この“*sáng đi tới về*”（自宅通勤）型の意義は、農村青年が地元で暮らしながらも農村社会からの恩恵や合作社の構成員としての福利を享受できる点にあり、「稼ぐための経済」市場での就労と近代的な労働市場文化を知ることができる点にあるといえます。

地方に立地する工業区の地域労働力雇用戦略が、新しいベトナム社会の発展にとって“*sáng đi tới về*”（自宅通勤）型雇用モデルを重要ならしめているのです。

¹ 本稿はベトナム語によるキーノートスピーチを日本語に要約したものである。訳：新美達也。

² 東京大学教授（2009年当時）